

持続可能な社会の探究Ⅰ 国際協力とジェンダー

家庭科 葭内 ありさ
保健科 増田 かやの

1. はじめに

本講座では、ジェンダーの視点を踏まえて、グローバルに諸問題を捉え発信し得る力を持つ女性リーダー育成を目指す。具体的には、教育課程の確立、世界各地で抱える貧困や紛争、女性の地位の低さの問題について現状を理解する。一方、女性の立場に配慮した援助や開発による、新たな問題解決方法について、世界各地の女性・男性のあり方や諸課題の背景を探る。解決・解消に向けて私たちにどのような協力ができるか、海外の高校生との連携や共同研究も視野に入れながら幅広い角度から考え、手法を探る。さらに、グローバルな問題を考えるとともに、自己のあり方、生き方、進路といったキャリアデザインも合わせて考えつつ、自ら探求した過程や成果について対外的に発信していく力を養うものである。

2.1. 今年度の活動内容

(1) 探究活動の紹介 前半（5月～9月）

お茶の水女子大学教授による講義やグループワークを中心に活動し、社会が抱える諸課題についてジェンダーの視点からの知識を深め、分析・検討を行った。戸谷陽子教授による講義では、アートの世界を題材に表象リテラシーを学んだ。三浦徹教授・副学長による講義では、中東諸国の現状およびイスラム教や宗教と国際協力のあり方を学びその課題について考えた。永瀬伸子教授による講義では、歴史的な背景や就労問題、働き方改革、少子高齢社会、社会保障制度、晩婚化など日本の社会課題を経済とジェンダーの視点で学んだ。また、大学においてジェンダー平等に関する研究を行う卒業生による、性的マイノリティーへの理解とLGBTに関する最新研究の紹介なども実施した。それぞれの講義の後には、感想・意見交換を行い、さらに考えを深めた。また、Facebook COO シェリル・サンドバーグのジェンダーに関する著書「リーン・イン」の読書を課し、その後に読書会を実施した。さらにフィールドワークとして、Plan Internationalの事務局を訪問し、世界各地における貧困や紛争に苦しむ人々の状況を知り、その課題と解決策について、ジェンダーの視点から考えた。国際協力のキーワードである国連SDGsについては、昨年度より1.2年次に担当者の授業（家庭科、保健科）の中で折に触れて学ぶ機会を意識的に取り入れ、さらに、本授業において教育格差や貧困など具体的な問題についても探究を行った。夏季休業中の課題として、探究レポート（本講座でこれまで学習した内容を踏まえて、ジェンダーや国際協力に関わる社会課題を各自で設定し、調査内容や考察をレポートにまとめること）のほかに、国連東京本部主催の高校生スピーチコンテストへの応募を課した。後者においては、東京都大会へは3名が選出され、1

名が優秀賞、2名が努力賞を受賞した。

上記の内容を踏まえて、後半は、6つの探究グループに分かれて、課題解決や発信のための探究活動を行った。グループの課題は次の通りである。

- ・ TWC～トランスジェンダーが使いやすいトイレとは～
- ・ 発展途上国の女子へおくる衛生向上計画
- ・ 性的少数者を含む全ての人々が快適に過ごすことのできる制服作り
- ・ 表象とジェンダー ～ジェンダー格差をなくすには～
- ・ 女子教育と識字率
- ・ 男女共同参画社会実現～アンコンシャス・バイアスをなくすために～

2.2. 本時の活動

はじめに、2年生から実施した探究活動をポスターセッション形式で発表を1回5分で1年生に伝えた。事前に発表の際には、探究活動を行う上での留意点（例えば、関係機関や研究者へのアポイントや調査の仕方、発信の準備など）を盛り込むよう、伝えている。全ての班の発表を聞き終わった1年生は、振り返りシートに質問や良かった点を記入し、考えをまとめた。時間の関係で、1年生からの質問や交流過程での新たな気づきをまとめ、全体で発表して共有する時間はなかったものの、両学年とも授業評価は高いことが確認できた（表 2.2.1）。

2.2.1 生徒の本時の授業評価

対象：2年生 19名	対象：1年生 20名
発表に対して具体的にコメントができるよう、各グループの発表を聞くことができた。(4.3)	自分なりの疑問や課題をもって臨むことができた。(4.2)
1年生の質問に応じたり、できるだけこちらから声をかけたりしようとした。(4.3)	疑問に感じたことなどは質問カードに記入したり、できるだけ質問したりしようとした。(4.1)
分科会で積極的に話し合いに関わろうとした。(4.1)	分科会で積極的に話し合いに関わろうとした。(4.1)
「探究I」の経験者として伝えるべきことを伝えられた。(4.2)	自分なりの疑問や課題に感じていたことを解消することができた。(4.4)
今日の発表会・分科会を通して改めて自分の1年間の取り組みを振りかえることができた。(4.6)	今日の発表会・分科会を通して探究の具体的なイメージをもてた。(4.2)

() 内の数字は5段階評価の平均値であり、5が最高値である。

2.3. まとめと今後の課題

生徒の感想として、1年生からは、本時により探究活動において心構えを知ることができた、課題解決には幅広い知識が必要である、発信する力をつけたい、等があった。2年生からは、探究成果の再評価や、探究活動によって視野を広げることが出来た、学び得たことを進路選択にも生かしたい、等が寄せられた。一方、1年生からは探究の過程をもう少し詳しく知りたい、2年生からは時間的な制約もあり十分な活動報告が出来なかった旨の意見もあった。これまでの探究活動の実績を踏まえつつ、継続的な学習を支えていくための仕組みのあり方が今後の課題と言えよう。